

ウポイ
NATIONAL ANIM MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間令和6年1月19日
札幌開発建設部

受賞団体決定！「わが村は美しくー北海道」運動

～札幌ブロックからは優秀賞2団体、奨励賞3団体が受賞～

北海道開発局は、「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクールを開催し、選考の結果、全道63団体（56市町村）の応募の中から、農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動として、優秀賞12団体、奨励賞18団体を表彰することを決定しました。

このコンクールは、自然的・社会的・歴史的に特徴のある景観を形成してきた北海道の農山漁村が、より「美しく」あるため、地域の魅力と活力を高めようとする住民主体の活動を見だし、これを広く発信し、波及させていくことによって農山漁村の振興に寄与することを目指し、平成13年から、2年に1度開催しています。

今回は、全道10のブロックごとの審査により、各ブロックから選定された団体（優秀賞12団体、奨励賞18団体）を表彰します。

なお、優秀賞の中から、来年度（令和6年度）の大賞審査により、第11回コンクールの大賞を決定します。

札幌開発建設部管内から優秀賞として2団体（特定非営利活動法人 山のない北村の輝き、元気村・夢の農村塾）、奨励賞として3団体（沼田町産直グループ 愛菜ママ、疏水ほっかい愛護連絡協議会、一般社団法人 恵庭青年会議所（えにわハッピーハロウィン実行委員会））が受賞しました。

また、ブロック審査委員会より2団体（そらち南農協青年部、札幌伝統野菜「札幌大球」応援隊）が特別賞に選定されました。

表彰の場所、日時につきましては、決まり次第、関係団体等へお知らせします。

（※コンクールの概要は別紙1、受賞団体及び活動内容は別紙2、3を参照）

【「わが村は美しくー北海道」運動とは】

北海道の農山漁村が持つ、かけがえのない地域の資源（景観・地域特産物・人の交流）を守り、次の世代に引き継ぎ、そこに住む人々が誇りを持てる北海道の「わが村」の未来を創っていこう、との思いから生まれた運動です。「地域に住む方々が主体となった地域づくり活動の普及により、北海道の農山漁村全体が豊かになり、活性化をもたらす」ことを基本の考え方とし、地域で活動する団体などを支援しています。

「わが村は美しくー北海道」運動の情報は、以下のホームページに掲載しています。

https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/nou_sin/ud49g700000emhm.html



【問合せ先】 北海道開発局 札幌開発建設部 電話（代表）011-611-0111

土地改良情報対策官

山本 弘樹（内線 2433）

土地改良情報対策官付 係長

荒川 喜剛（内線 2565）

札幌開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/sp/>



「わが村は美しく —北海道」運動 とは？



Point

- 北海道の農林水産業をより豊かにすることを目指し、平成13年にスタート
- 道内各地で地域資源を活用して地域を活性化しようとする住民主体の活動に対する支援



「景観」の形成

【景観】
地域の特色を活かし、生活と生産に根ざした景観形成活動

【人の交流】
地域の魅力を高めるコミュニティづくりに結びつく都市及び地域内外の人たちとの交流活動

魅力ある活気に満ちた北海道

「地域特産物」のブランド化



【地域特産物】
地域で生産される農林水産物及びそれらを主として利用した加工品の生産販売活動

活発な「人の交流」づくり



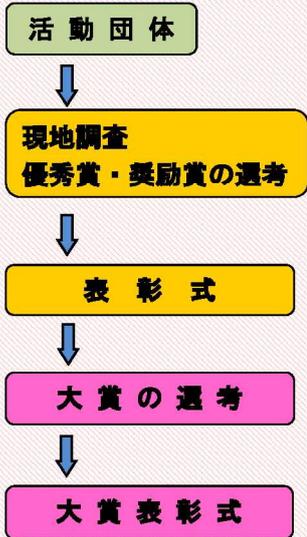
- **参加しよう**—中心となるのは、**地域に住む人々** 「地域の資源」を見つけよう
- **広げよう**—活動の輪を大きく、自由に 地域の個性を競い合い高め合い
- **伝えよう**—北海道の「いいもの」を、もっと外へ 地域住民の努力と行動に光をあて、広く伝えよう

取組

- コンクールの開催 ← 「地域資源」を見つけ、「いいもの」を多くの人に伝えます
- 地域の魅力を高めようとする地域住民の活動をさらに広く伝えて、その活動を支援し波及させます

第11回「わが村」運動 コンクール

地域住民の活動を支援する一環として、地域で活動する団体を対象にコンクールを開催しています



第10回コンクール 大賞受賞団体



R5年度

北のなのはな会【安平町】

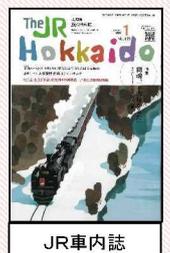


R6年度

ほんべつ豆まかナイト 実行委員会【本別町】

多くの人に伝えるための取組

- HPへ掲載 https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/nou_ein/ud49g700000emhm.html
→活動団体の最新情報を広く発信
- メールマガジンの配信
→活動団体への情報提供
→活動団体の最新情報を発信
- JR北海道の車内誌
→「The JR Hokkaido」への掲載 (JR北海道の協力)
- 地域イベントで活動PR
→地域イベントに参加し 団体活動を紹介
- パネル展でPR (北洋銀行との連携)
- Facebook(フェイスブック)の取組
→活動団体の最新情報を広く発信



JR車内誌



札幌大通でのパネル展

FacebookはこちらのQRコードからご覧頂けます。





令和6年1月19日
北海道開発局

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクールの受賞団体を決定
～農山漁村地域の活性化に貢献する活動を応援しています～

「わが村は美しくー北海道」運動では、平成13年から2年に1度コンクールを開催しており、今回で11回目となります。

第11回コンクールには全道から63件（団体）の応募があり、審査の結果、優れた活動として優秀賞12団体、奨励賞18団体を表彰することとしました。

表彰式は、本日以降、随時、受賞団体の応募先である各開発建設部において行う予定ですので、詳細については、該当する開発建設部土地改良情報対策官にお問い合わせください。

○第11回コンクールの概要について

1. コンクールの応募状況等について

(1) 応募件数

全道56市町村から63件（団体）の応募

(2) 審査経過

▶令和5年1月～令和5年6月：募集

▶令和5年7月～10月：全道10ブロック※での現地調査
（ブロック審査委員会による全応募団体の調査）

▶令和5年7月～11月：ブロック審査委員会での審査
（現地調査の結果から受賞団体を選考）

※各開発建設部の所管を1ブロックとしている。

2. 受賞団体について

(1) 優秀賞※（北海道開発局長表彰） [12団体]

※優秀賞：ブロック審査により、活動が優秀と認められた団体を選定。

- ▶ 特定非営利活動法人 山のない北村の輝き（岩見沢市）
- ▶ 元気村・夢の農村塾（深川市、妹背牛町、沼田町、北竜町、秩父別町）
- ▶ にじいろファーム（七飯町）
- ▶ 美国・美しい海づくり協議会/余別・海HUGくみたい（積丹町）
- ▶ 名寄市立大学援農ボランティアの会（名寄市）
- ▶ ニサナイ大地の会（むかわ町）
- ▶ 北海道中標津農業高等学校 マネージメント研究班（中標津町）
- ▶ 北海道帯広農業高等学校 食品科学科 地域資源活用分会（帯広市）
- ▶ ピロロツーリズム推進協議会（広尾町）
- ▶ 合同会社 びほろ笑顔プロジェクト（美幌町）
- ▶ フレッシュ市場「花菜夢」（遠別町）
- ▶ 社会福祉法人稚内市社会福祉事業団 就労継続支援B型事業所 稚内市北光園（稚内市）
（受賞団体名は順不同です）

【別紙2】

(2) 奨励賞※（各開発建設部長表彰） [18 団体]

※奨励賞：ブロック審査により、将来性や継続性から奨励すると認められた団体を選定。

◇札幌ブロック [3 団体]

- ・沼田町産直グループ 愛菜ママ（沼田町）
- ・疏水ほっかい愛護連絡協議会（岩見沢市）
- ・一般社団法人 恵庭青年会議所（えにわハッピーハロウィン実行委員会）
（恵庭市）

◇函館ブロック [2 団体]

- ・ハコダテフィッシャーマンズ（函館市）
- ・一般社団法人 福島町まちづくり工房（福島町）

◇小樽ブロック [1 団体]

- ・しりべし女子会（後志管内）

◇旭川ブロック [2 団体]

- ・辰巳農園（上川町）
- ・JA ふらの女性大学（富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村）

◇室蘭ブロック [2 団体]

- ・壮瞥町オロフレ地熱利用野菜組合（壮瞥町）
- ・合同会社 自然農業社（壮瞥町）

◇釧路ブロック [1 団体]

- ・みんなの景観なかしべつプロジェクト（中標津町）

◇帯広ブロック [3 団体]

- ・株式会社 地恵贈（池田町）
- ・北海道本別高等学校 豆乳クレンジングジェル班（本別町）
- ・北海道士幌高等学校 乳加工専攻班（士幌町）

◇網走ブロック [2 団体]

- ・株式会社 滝上町和ハッカ・ラボ（滝上町）
- ・つべつ豆のわ！！プロジェクト（津別町）

◇留萌ブロック [1 団体]

- ・乳製品加工研究会「美留来のゆめ」（天塩町、幌延町、遠別町）

◇稚内ブロック [1 団体]

- ・北海道豊富高等学校ボランティア部（豊富町）

（受賞団体名は順不同です）



体験農場での収穫体験

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体
特定非営利活動法人 山のない北村の輝き

【岩見沢市】

～ いつまでも大切な故郷 ～

【はじめりは？】

地域住民に対して地域のまちづくりのため、旧美唄川の「水辺の楽校」を拠点として、地域の風土を学び、適正な河川利用と環境の保全、地場産業の活性化などに地域住民の声を反映させるなど、よりよい「まちづくり」の創造と国土の保全に寄与することや、市町村合併等により人口減があっても、「北村地域に何かを残したい」、「子供たちが大きくなった時に帰ってきたいと思えるような故郷にしたい」との思いから、平成16年にNPO法人として発足して活動を行っています。

【おもな活動】

河川環境の維持や植樹の活動のほか、農泊やキャンプをしながら農作業や収穫などを体験できる企画や、自然景観を堪能できるカヌー体験などのツアー、ガイドによる北村地域の歴史見学の実施などにより、地域内外での交流を図っています。

また、「北村の歴史ガイドブック」や「北村三兄弟物語」といった北村の歴史に関する副読本を作成しており、歴史ガイドツアーにも活用していく予定です。

石川啄木の碑
(北村豊里)

北村三兄弟物語

【ここが自慢】

農場での収穫や発送といった農作業の体験、地元の食材を使った伝統料理の調理や試食、わら細工の作成体験のほか、植樹と歴史見学を組み合わせたツアー、雁里沼でのカヌー体験、冬には広大な雪原をウォーキングするスノーシュー体験やわかさぎ釣り体験等、季節に関係なく楽しんでもらえる体験メニューが盛りだくさんです！



植樹&歴史見学ツアー



カヌー体験

連絡先

代表者名：石黒武美さん／設立：H16年／会員48名

住所：

電話番号：

F A X：

E-mail：

U R L：



優秀賞

深川市
妹背牛町
沼田町
北竜町
秩父別町



コロナ禍期間中の受入風景（ハロウィン用のランタン作り）

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体

元気村・夢の農村塾

【深川市、妹背牛町、沼田町、北竜町、秩父別町】

～ 出会いは人生の種まき ～

【はじまりは？】

都市部の人との交流をとおして、農業・農村の理解者を増やすことを目的にして平成14年3月に設立し、自分たち自身も夢を持つことができるように「夢の農村塾」と名付けました。

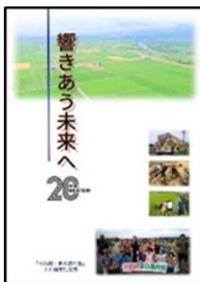
初代塾長のモットーである「出会いは人生の種まき」、「一期一会」という言葉を基本理念に活動を行っています。

道外の都市部から来る子供たちにとって、短い期間であっても、北海道の田舎での生活は異文化体験であり、私たちとの交流が一期一会であるからこそ、出会いと過ごす時間を大切にしたいと思っています。

【おもな活動】

主に修学旅行で来道する道外の高校生を対象に20年以上にわたり農業体験の受入れを行っており、1泊2日でのファームステイのほか、2泊3日や日帰りでの受入れも行っています。

体験内容としては、農作物の収穫や草取り、トラクター乗車体験といった農業に関わる作業のほか、会員個々も工夫を凝らして、蕎麦打ちや豆腐作りといった農作業以外の体験メニューも行っており、食事も自家野菜やお米を使って一緒に料理することで、手作りの美味しさや作る喜びを実感してもらっています。



記念誌
(20周年記念)

【ここが自慢】

農業体験といっても、水稻や畑作以外に果樹園を経営している会員もおり、非常にバラエティーに富んだ体験をすることができます。

また、会員宅に宿泊しての農業体験となるので、みんなで一緒に畑から野菜を収穫してご飯を作ったり、都会では見ることのできない満天の星空を鑑賞したりと、一期一会の出会いや時間を大切にしています。

一生の思い出を作れるようにと受入活動を行ってきた結果、20年以上の活動期間で1万7千人以上の方々に農業体験をしていただいている、最近では海外から来る方にも体験をしていただいています。



20周年記念誌
からの抜粋

連絡先

代表者名：村上はるみさん／設立：平成14年／会員：23名

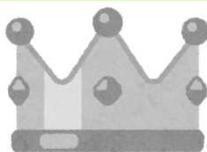
住所：

電話番号：

F A X：

E-mail：

U R L：



奨励賞

沼田町



手造り「愛菜みそ」

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体
沼田町産直グループ 愛菜ママ

【沼田町】

～ 田舎にいる農家の親戚を目指して ～

【はじめは？】

就農して日が浅い若手女性農業者同士の交流や意見交換の場、沼田町で生産している農産物の美味しさを都会の人たちにも知って欲しいという希望と、自分たち自身でもPRをしたくて平成8年に団体を設立しました。

次世代を担う地域の若手農業者にも安心・安全な農作物の生産や加工品の製造、販売に関心を持ってもらい、イベントをとおして都市部の子供と沼田町の子供と一緒に農作業を体験して交流を深めることで、子供たちにも生産者と消費者の繋がりを知ってもらうことや、基幹産業である農業に興味を持ってもらうことを目的として活動を行っています。

【おもな活動】

特別栽培米の麴や大豆など沼田町の農産物を使った手造り「愛菜みそ」や農産物、農産加工品の産地直送による販売では、生産者である会員自らが発送までを行うことで、消費者にも安心して商品を購入してもらっています。

この活動をとおして、私たちが農業に対して誇りを持って作業をするきっかけにもなっており、私たちが目指している安心・安全な農産物の生産や加工品開発への取組を次世代の農業者に繋げて行きたいと思っています。



「愛菜みそ」造り

【ここが自慢】

私たちの栽培した農産物と加工品は、産地直送やイベントで販売していますが、消費者に野菜の育て方や食べ方などの話題も織りまぜながら、農産物や沼田町のことをPRしています。

何よりも安心・安全な農産物を心がけているので、栽培に際しても低農薬にこだわっているのがアピールポイントです。

また、産地直送で発送する際には、会員の手書き通信「愛菜ごよみ」やレシピ集なども同封しています



発送する野菜と「愛菜ごよみ」

連絡先

代表者名：植木千鶴さん／設立：1996年／会員：7名

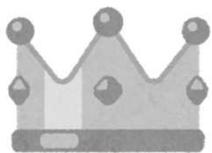
住所：雨竜郡沼田町字高穂41番地（代表宅）

電話番号：0164 - 35 - 1754

F A X：0164 - 35 - 1754

E-mail：

U R L：



奨励賞

岩見沢市



沿線の草刈り活動



活動前の集合写真

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体
 疏水ほっかい愛護連絡協議会
 【岩見沢市】

～ いつまでも美しく（北海幹線用水路の景観保全&美化活動）～

【はじめは？】

北海土地改良区管内（9市町）に跨る北海幹線用水路は、空知穀倉地帯の大動脈として重要な役割を果たしているだけではなく、歴史的にも非常に価値が高い施設であることから、北海道遺産や農林水産省が選出する疏水百選にも選定されています。

この北海幹線用水路沿線の景観保全と美化活動を行うため、平成19年に北海幹線用水路沿線の企業24社に所属する有志の社員が集まり、協議会を設立して活動を開始しました。

【おもな活動】

協議会の設立当初より年に5～7回程度、北海幹線用水路沿線の草刈り作業を行い、雑草が取り除かれることで景観が改善されることと併せて、見通しも良くなることで、用水路への落下事故防止にも役立っています。

草刈り作業と併せて桜の植樹活動も行っており、地域の憩いの場の創出にも貢献していて、花が咲くようになれば植樹した沿線が桜並木となるので、新たな観光スポットになることも期待されています。

また、インターンシップに来ている高校生や海外からの農業研修者、地域住民の方などにも参加してもらい、会員以外の方たちとも活動とおして交流を深めています。



沿線の草刈り活動

【ここが自慢】

景観の保全や美化活動として行っている幹線用水路沿線の草刈りや桜の植樹は、毎年500人以上、多い年には年間1,000人以上が参加している活動で、参加者全員が気持ちの良い汗を流した後、昼食として地域名物のとり飯のお弁当が配られることも好評を得ています。

また、植樹をした桜も花を咲かせる箇所があり、春先には満開の桜並木となって、地域の方々の憩いの場にもなっています。



植樹の様子



開花した桜

連絡先

代表者名：及川聡さん／設立：平成19年／会員：31団体

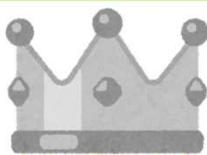
住所：岩見沢市3条西7丁目10
 (株)日星電機岩見沢支店内

電話番号：0126 - 22 - 1620

F A X : 0126 - 25 - 2271

E-mail : sosui@nissei-d.co.jp

U R L :



奨励賞

恵庭市



飾りつけたかぼちゃの馬車
(道の駅：花ロードえにわ)

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体
一般社団法人 恵庭青年会議所(えにわハッピーハロウィン実行委員会)
【恵庭市】

～ 道内最大級のハロウィンイベント！！ ～

【はじまりは？】

恵庭市はえびすかぼちゃの生産地として知られており、かぼちゃプリンを始めとした様々な特産物があります。その中で、かぼちゃを売りにした地域を盛り上げる事業として「えにわハッピーハロウィン」を企画しました。

イベントを運営する組織として、恵庭青年会議所の会員により実行委員会を立ち上げ、2015年から「えにわハッピーハロウィン」を毎年開催しています。

【おもな活動】

「えにわハッピーハロウィン」では、街を盛り上げることを目的に、恵庭市内の会場にハロウィンかぼちゃを飾りつけて幻想的な風景を生み出し、多くの人々が集まることにより賑わいを創出しています。

そのため、恵庭市内の栽培農家にハロウィンかぼちゃを栽培してもらい、毎年1千個以上、大豊作の年には約2万個のハロウィンかぼちゃを収穫して、来場者や市内の小学生、幼稚園児にかぼちゃを使ったランタンを作成してもらって飾りつけをし、会場に華を添えています。イベント当日は、2021年から「はなふる」をメイン会場としてランタンを飾りつけたりキッチンカーが出店したりと、開催期間中に最大で2万人も来場したことがある一大イベントになっています。



恵庭市内の幼稚園児によるペイントしたかぼちゃ

【ここが自慢】

「えにわハッピーハロウィン」の開催期間中は、恵庭市で栽培したカボチャを使ったジャックオーランタンで会場が埋め尽くされます。会場となる「はなふる」では、ジャックオーランタンの製作体験や景品があたる各種イベント、キッチンカーも出店するなど、子供はもちろんのこと、大人も楽しめる一大イベントです！



運営事務局メンバーとボランティアの皆さん



ジャックオーランタンの製作風景

連絡先

代表者名：進藤祐介さん／設立：1971年／会員：14名

住所：恵庭市京町80番地 商工会議所内3階

電話番号：0123 - 32 - 0196

F A X：0123 - 32 - 4746

E-mail：

URL：<https://ja-jp.facebook.com/eniwa/jc/>



特別賞

栗山町
由仁町

田植え作業後の集合写真

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体
 そらち南農協青年部
【栗山町、由仁町】
 ～ 受け継ぐ食育交流 ～

【はじまりは？】

基幹産業である農業、特にお米の消費が減少していることから、都市部に居住する親子を対象に、農家と直接交流することで、食と農業について興味を持ってもらい、農産物の消費アップにも繋がりたいとの思いから、約30年前より農作業体験などの交流を始めました。

【おもな活動】

体験する作業は、お米になるための最初の一步となる苗の田植えを春に行い、実った稲穂の稲刈り収穫体験を秋に行っています。農作業を体験した後は、昼食としてカレーライスと一緒に食べたり、餅つき等も行っており交流を深めています。

参加するのは、主に姉妹都市となっている札幌市白石区の親子ですが、栗山町内にある介護学校の学生も参加してくれています。初参加の人は、水田に入る、苗を触ったり植える、収穫期には鎌を持って稲を刈る、全てが初めてで悪戦苦闘しながらの作業ですが、みんなと一緒に体験することで笑顔が絶えない中にも、農業の大変さや生産者である農家を少しは身近に感じてもらえる時間を過ごしています。

普段接する機会の少ない都市部の子供たちとの交流をとおして、農業のやりがいや意欲をかき立てられる場となっていて、私たちも得られるものが多い活動です。



収穫前の稲穂

【ここが自慢】

田植え、稲刈りといった農作業体験や交流を始めて30年、子供の時に参加した方が親になり、子供を連れて親子2代に渡って参加してくれる人や、毎回参加してくれるリピーターもおり、「継続は力なり」を実感しています。

また、栗山町・由仁町内の農産物は、札幌をはじめとした都市部でも販売するイベントを行っており、子供たちとの農作業体験と同様に、栗山町・由仁町のことをPRできる機会になっています。

今後も、消費者の食卓へ、私たち生産者の顔が見える安心・安全な農産物の提供と、信頼され続ける産地として頑張ります。



農産物販売会の様子

連絡先

代表者名：山根達也さん／設立：2009年／会員：92名

住 所：

電話 番 号：

F A X：

E-mail：

U R L：<http://www.ja-sorachiminami.or.jp/blog/>



札幌大球（左）と一般的なキャベツ（右）の大きさ比較

「わが村は美しくー北海道」運動第11回コンクール応募団体
札幌伝統野菜「札幌大球」応援隊
【札幌市】

～ ファイト！！ 札幌伝統野菜「札幌大球」 ～

【はじめりは？】

札幌伝統野菜の一つである「札幌黄」の普及活動を行っている会員が、北海道の風物詩ともなっている「にしん漬」には欠かせない札幌伝統野菜「札幌大球」が「絶滅の危機に瀕している、なくなってしまおう！」との相談を受けて、大学の教授、市役所、料理研究家、スーパーの社長さんといった、立場を超えた有志が集まり「札幌伝統野菜『札幌大球』を途絶えさせてはいけぬ！！」との熱い思いから、2015年に応援隊を結成しました。

【おもな活動】

漬物メーカーや飲食店の賛同をいただき、収穫時期となる10月上旬から11月にかけて、「札幌大球」を使った加工品開発やメニューを提供してもらうなど協力をいただいています。また、「札幌大球」オーナー制度を設けて市民の方々にオーナーとなってもらい、農場での栽培や収穫の体験、「札幌大球」を使った「にしん漬」を漬物メーカーから送ってもらったり、「にしん漬」を家庭で作るための講習会も開催しています。私たちは、「札幌大球」をわかって食べる、わかって買って欲しいという想いと一緒に、「札幌大球」を広く一般の方にも知ってもらいたい、途絶えさせたくないとの熱い想いを持って応援活動を行っています。



札幌大球を使った「にしん漬」

【ここが自慢】

「札幌大球」のオーナー制度を設けていることで、収穫時期に「札幌大球」や「にしん漬」が送られてくるだけではなく、都会である札幌市内でも、農場で苗の定植や収穫作業といった農作業の体験が行えます。

また、オーナーになってもらうことで、途絶えかけている伝統野菜を次世代に繋げる役割を担ってもらえるのも大きなアピールポイントです。

さらに、収穫時期には、協力店で「札幌大球」を使ったメニューが期間限定で提供されますので、是非味わっていただきたいです。



農作業体験の様子



期間限定メニュー

連絡先

代表者名：日原康貴さん／設立2015年／会員：20名

住所：札幌市中央区北1条東4丁目8-8
 大竹ビル2階 (株)ブレナイ社内

電話番号：011 - 231 - 1713

F A X：011 - 231 - 1714

E-mail：taikyuu@brenaiisha.com

U R L：https://www.sapporotaikyuu.fun/